

●● 校訓 (より正しく・より豊かに・よりたくましく) ●●

令和7年度 帯広市立帯広小学校 学校便り

帯小の窓

通いかい、通わせかいある学校、今日もおもしろかったな

～学校教育目標～

- よく考え、意欲的に学ぶ子
- 命を大切にし、たくましくやりぬく子
- 豊かな心を持ち、協力し合う子
- 勤労の大切さを知り、すすんで働く子

NO. 28 令和7年12月8日 発行

校長 黒島 俊一

素直に話が聞けるとのびる ほめるとのびる

12月3日から4日にかけ、昨年より少し早めの、まとまった降雪が見られましたが、スケートリンクづくり土台となる「雪ふみ作業」に入れるほどまでの雪はなく、まだ造成の中途が立たず、ご心配をおかけしています。実施に向けたスケート靴の準備の判断については、もう少々お待ち頂きたいと思います。

さて、来年2月には冬季オリンピックが開催され、連日、各種世界大会の日本人選手、日本チームの活躍が報道されていますが、中でもスピードスケートは帯広、十勝出身の選手の活躍がめざましく、その第一人者である幕別町出身の高木美帆選手の活躍は、今回も大いに期待されるところです。その高木選手のはじめてオリンピック出場は中学生の時でした。その高木選手が、以前自身の強さの秘訣についてのインタビューで、

「素直に人の話を聞いて、アドバイスを聞くことができ、忠告が体現できるように工夫しながら努力すること」とコメントしていました。一流のアスリートですから、自分も同じように、とは行かないかもしれません。それでも昔から、学校でも学習や様々な活動の中で、人の話を素直に聞いて、頑張る子は伸びる、と言われることは確かにあります。



現在、NHK 大河ドラマ「べらぼう」が毎週放映され、物語も最終盤を迎えていました。江戸時代の版元（出版社）の「葛屋重三郎」（つたやじゅうざぶろう）の生き方に視点をあてたこのドラマには、個人的に歴史のロマンを感じ、毎週興味深く見ています。その最近の放送の中で印象に残ったところがあるのです。

絵師である、かの「喜多川歌麿」（きたがわうたまろ）は、もともと「葛屋重三郎」（通称 つたじゅう）付の絵師だったのが、袂を分けて、別の版元から絵を出版し始めます。ところが、いつもなら「つたじゅう」が「歌麿」の作品に様々な注文をつけてきて、それに応える形で多くの素晴らしい作品を生み出してきたことと、勝手が異なり、他の版元は自分の作品を「褒めるばかりで何も言わない（ダメ出しをしてこない）」その物足りなさを訴える場面がありました。

日本の大変著名な、代表的な絵師であり、歴史の教科書にもその作品とともに多数登場する「喜多川歌麿」が、人から指摘されることで、より良いものを作っていくとする向上の意識は誠に興味深く、史実に基づいたフィクションとは思いつつも、歴史上の人物の創作に向けた心情としては、実に重みがあるものです。それだけに、絵をもって名声を得たことによる孤独や不安、心細さなど、様々な感情が入り混じったものとも想像します。

さて、こうしたことを我が子に置き換えて考えた時、ご家庭で保護者の方にとって、お子さんが素直に話が聞けるように育てることは容易なことではないと思いますし、また、「教える」「しつける」名のもと、つい指摘や注文ばかりにもなりがちです。どうか進んでお子さんのよいところを見つけて、具体的にほめ、たくさんの言葉ではなくても、素直に心から、がんばったね、やったね、などの励ましの言葉と、「こうなればもっと良くなる」少しの指摘とのバランスで、気持ちをつなげる親子の絆を大事に、お子さんを普段から気にかけ、声かけることの大切さも考えます。

※ 学校評価にご協力をお願いします(〆切は本日8日です)

- 過日、後期の学校評価についてご協力をお願いしたところ、順次回答のご協力をいただいているところです。ありがとうございます。
- 1学期の学校評価は、回答の最終回収率が少々さみしい状況がありました。学校あげて、子供たちを真ん中に据えた保護者・地域のみなさんとともに頑張ってきた、学校の下半期2学期の取組に対し、様々な視点と細やかな目で、お子さんの姿を通して、学校の取組を振り返っていただきますようお願いします。

<https://forms.gle/wcqHh1u8aadq5R869>



新入学児童就学時健康診断から思うこと

「ドッ、キ、ドキドン、一年生♪」、という歌は、1年生に入学する子が入学を待ち焦がれたその気持ちを歌にしたもので、親御さんにとっては子育てリアルタイムで感慨もひとしおと感じさせ、また、子育てを終えたみなさんにとっても、「そんなときもあったよなあ」と思わせるものかもしれません。歌を耳にすると、お子さんの幼少期の毎日を思い出すのではないかでしょうか。私の親としての子育て期間はとうに昔のことではあります、毎年1年生を迎えるこの時期になると、いつも頭の中でこの曲が巡ります。もう30回以上にもなりますが。

過日、令和8年度に本校への入学を予定している子供たちの健診が行われました。現在のところ、27名の入学を予定しており、今年の1年生よりは少し多めですが、1クラス規模であることに変わりはありません。引き続き、こじんまりとした規模の中で、子も親も先生も、みんなで仲良く楽しく過ごせる学校づくりに邁進したいものと考えるものです。

残念ながら、急病により当日の出席がかなわなかった校長ですが（恥ずかしながらですがもう大丈夫ですので、ご心配なく。）全体運営を取り仕切った教頭、主幹教諭からは、新一年生の子供たち、保護者のみなさんから、和やかであたたかな親子のよい雰囲気を感じ、予定の健診も順々と進められたということです。

帯広小学校の今年度の重点は「学ぶ喜びと笑顔あふれる学校」です。引き続きその充実を目指し、通いがい、学ばせかいのある学校づくりを進め、新年度の1年生をお迎えしたいと思うのです。

帯広市の全小学校では、毎年、この時期に校長より「学校だより」等を通じて、来春卒業する6年生の保護者の皆さんに卒業式の服装についてお願いをしております。今年度につきましても、これまでと同様の考え方によるお願いになります。以下、ご理解とご協力をお願いいたします。

「卒業式の服装」については、全国的にも晴れの舞台として、華やかで可愛らしい姿で臨ませたいと「袴着用」をお考えになる保護者の方が多いです。こうした晴れの舞台で、お子さんを着飾らせたい親心は理解できるものではありますが、成人式等でみられるような光景とは、発達段階等も含め状況は異なるものと考えます。小学校卒業式の意味をふまえた時、また普段着慣れない「袴」の装いや履物（ぞうり等）の着用のほか、体温調節や動きやすさ、トイレや着付けの難しさ等、子どもへの心身への負担を考えると、式での袴の着用は、慎重に判断する必要があるものと考えます。

「卒業式」は「学習指導要領」でも示されている教育の場における「儀式的行事」として、六年間の小学校生活を振り返り、卒業生としての自覚や中学校進学への希望、将来の夢を抱かせる節目の儀式としての大きなねらいがあります。これは保護者のみなさんをはじめとする、これまで成長を支えてくれた方々への感謝の思いを表わすこと、更に1~5年生のいわゆる後輩にも、卒業生としてのその姿、立ち振る舞いを繋ぐ、小学校生活最後の授業という意味もあります。

卒業式における卒業生の服装につきましては、学校では「進学予定中学校の制服着用」を基本に考えますが、指定、強制できるものではありません。卒業式のねらいを受け止め、自信をもって最後の授業に臨める環境づくりとして、また中学校への夢と希望を持てる後押しとして、「進学予定中学校の制服等の着用」にご理解とご協力をお願いするものです。

なお、この件につきましてお問い合わせ等がありましたら、学校（教頭 電話 22-1424）まで連絡願います。

だれでも最初は一年生



卒業式 服装のお願い



帯広小の 今日のきらきらさん

第44回ステップワールドLL
英語スピーチコンテスト 銅賞
2年 武藤 紗菜 さん（写真左）
英語スピーチ、国際社会に夢開く素晴らしい特技です

第12回フードバレーとかちマラソン 完走賞
ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏
全日本ピアノ指導者協会 ピティナ・ピアノステップ
応用1合格
2年 若狭 光咲 さん（写真右）
運動もピアノもどちらも素晴らしいがんばりです。

